

## 平成 27 年度第 2 回郷土文化館協議会 概要

1 日時 平成 28 年 3 月 10 日（木） 午後 2 時～4 時

2 会場 小田原市郷土文化館 会議室

3 出席者

(1) 郷土文化館協議会委員

一寸木委員、奥野委員、明石委員、渋谷委員、鳥居委員、中村委員、平塚委員

(2) 市事務局側

栢沼教育長、諸星文化部長、安藤文化部副部長、友部生涯学習課長、岡郷土文化館係長、中村主事、大貫主事、保坂主事補

4 会議の概要

委嘱替えにともなう委員の紹介、委嘱状の交付を行った。次に、教育長による挨拶の後、新委員長・副委員長の選任を行い、一寸木肇委員を委員長、奥野花代子委員を副委員長として選任して議事に入った。なお、教育長は挨拶後、公務のため退席した。

議事の進行は、一寸木委員長が行った。

(1) 議題 1「平成 27 年度 郷土文化館事業報告」

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

①平成 27 年度入館者について

委員より講座等の普及事業の参加者も入館者数に入っているのかとの質問が出された。このことについて、事務局より、入館者数は館に来館した人数であり、普及事業参加者数とは別となっている旨、回答した。

これに対し委員より、博物館の活動は、館内と館外の両方で行われるものであり、館外での事業についても、別に考える必要はない。増減の傾向も分かった方が良く、カウントする際の報告は別でも良いが、多くの事業を実施しており、せっかくの館の実績であり、館の活動を示すひとつのツールでもあるとの意見が出された。

②平成 27 年度学校利用等について

委員より、事業が多く、大変かとは思いますが、学校利用等の一覧表が整理され、子どもの利用について比較して見られるようになったことは良かった。学校利用が増加傾向にあることは良い点だが、団体対応に即したプログラムなどは組んでいるのか。また、学校からの要望には一定の傾向があるのか。要望に沿ったメニューにすることでより利用が促進されるとの意見が出された。

このことについて、事務局より、学校の団体見学の際には、時間や内容など、各学校の要望に合わせて対応している。現状で多いのは、小学校三年生の昔の道具や暮らしに関する内容での見学である。今後、授業等でも活用しやすいよう、学習指導要領や要望の多い

内容に沿った展示を検討していきたいと回答した。

これに対し委員より、小学生に博物館に来てもらうのは大変だが、博物館に来ることが楽しいと小さい頃感じてもらうことが、中学生・高校生になってからの来館につながるとの意見が出された。

また、別の委員より、ミュージアムスタートとして、小学生の見学は非常に大事であると思う。小学校の昔の暮らしの見学で言うと、おじいさんやおばあさんの代までくらいの遡りであり、昭和の部分が主に学校の目安となっていると思われる。展示もそれを意識してもらえれば良いのではないかと、との意見が出された。

また、委員より館外の活動として出前授業という言葉が使われているが、博物館の活動を表す言葉としてはもっとふさわしいものがあるのではないかと、との意見が出された。

このことについて、事務局より、市の事業として出前講座を実施しており、それに即した名前としていたが、館の活動に合致した名前があるのか研究する旨、回答した。

また、別の委員より、足柄上郡の学校では、新任教員が夏休みに施設見学を行っており、町内の歴史や施設を知る良い機会となっている。市域が広いが、小田原市では学校の新任教員向けの市内見学などは実施しているのかという質問があった。

このことについて、別の委員より、確認が必要だが、おそらく初任者に対して市内の施設見学などはやっていないと思われる。夏休みの研修で初任者と小田原市外から赴任した職員を対象に尊徳記念館において二宮尊徳学習は実施されているとの意見が出された。

これを受けて委員より、今後、教育総務課などの学校教育に関わる部署に働きかけて教員を対象とした見学会などを実施することで、市の歴史や博物館等の施設を知るきっかけになるのではないかと。郷土文化館の近隣の学校も何校かあるので、そういった近隣エリアの学校に働きかけていくのも良いのではないかと、といった意見が出された。

### ③平成 27 年度展示事業実施概要について

委員より、戦後 70 年特集展示「戦時下の小田原と箱根療養所」を見学したが、会場内で視聴した箱根療養所の関連映像がとても印象に残っている。展示期間には多くの来館者があったようだし、今後にも活かしていただきたいと思いますとの意見が出された。

また、別の委員より、今年度の入館者増の影響は、NHK において放送された松永安左エ門のドラマや、小田原市が取り上げられ、文化財課職員が出演したブラタモリなどの番組の影響があったのではないかと。映像の提供は受けているのか。今後、活用することなどを検討しているのかとの質問が出された。

このことについて、事務局より、今年度の夢見遊山いたばし見聞楽の講演会では、ドラマの演出をした NHK の柴田ディレクターにドラマの映像を映して実際の場面を見ながら講演をしていただいたことを報告。映像の提供は受けているが、ドラマを収録した DVD は一般に販売されているものであり、ドラマや番組の今後の活用については、NHK へ都度確認する形となる旨、回答した。

これを受けて委員より、今後、可能であれば松永記念館でドラマの数分間のダイジェストを見られるようにするなどしても良いのではないかと。ブラタモリなど他の番組につい

ては、活用は難しくとも、記録を保存しておくことは大事である。ただ歩くだけではなく、目的をもって来る方が増えているのではないかとの意見が出された。

#### ④平成 27 年度資料調査・収集・管理等業務実施概要について

委員より、色々な資料が集まってきて保管する場所の確保も必要だとは思いますが、収蔵庫はまだ横田七郎作品などの寄贈を受けるだけの余裕があるのか。もし収蔵スペースに余裕がないのならば新しく収蔵庫を作るのはなかなか難しいかもしれないが、廃校になった中学校など、既存の施設をうまく活用することができないか。横田さん以外にも、市内の作家等で、現在は家族が何とか所蔵をしているが、今後も持ち続けられるか分からないという状況が多数あるので、小田原市で集めて収蔵できると良い。一度失われれば、後からは集めようがないとの意見が出された。

また、別の委員より、横田さんの作品は塑像だけではなく木彫もあり、市内の学校などでも多数作品を所蔵している。所蔵先を網羅した地図を作るなど、エコミュージアム的に発展できる要素もあるのではないか。収蔵場所の問題はなかなか難しい面もあると思うが、適宜良い保管の場所や方法を検討してほしいとの意見が出された。

#### (2) 議題 2「平成 28 年度 郷土文化館事業実施計画案」について

このことについて、まず事務局から会議資料に従って概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

##### ①平成 28 年度資料展示事業実施計画（案）について

委員より、郷土文化館の常設展示について、今回展示の改善内容が明確になったことは良いと思う。しかし、一年かけて計画的に改善していくようなことでもない部分も少しあるのではないか。実施予定の催事が多くあるので大変だとは思いますが、順次改善していつてもらいたいとの意見が出された。

また、別の委員より、特別展「小田原と映画（仮）」について、可能ならば近隣の市町村も含めた内容にしてもらいたい。広げていくと切りがないかもしれないが、公園や学校などの巡回映画が果たした役割も大きいのではないか。との意見が出された。

さらに、別の委員より、特別展「近藤弘明展（仮）」について、近藤さんのお弟子さんが多数いるので、協力いただいて、可能ならば内野邸などを活用してお弟子さんの作品展を同時期にできないか。入場者数も伸びると思うとの意見が出された。

これについて、事務局より、展覧会の開催に際して、お弟子さんには作品調査等も含めて協力していただきながら準備を進めていく予定である。その中で検討していきたい旨を回答した。

##### ②平成 28 年度資料調査・収集・管理等業務実施計画（案）について

委員より、燻蒸について、平成 28 年度は実施しないということであるが、他の施設でも、最近では目視による観察などの IPM 方式を取り入れているところもある。ただ、その

場合は、カビや虫などが発生した場合には、即座に対応が求められる。また、目視による観察には限界があるので、空中浮遊菌調査やインセクトトラップによる文化財害虫の調査は必要であるといった意見が出された。

このことについて事務局より、インセクトトラップやクリーナーについては検討しており、消耗品費の方で対応していきたいと考えている旨を回答した。

これを受けて委員より、IPMを導入するから燻蒸をしなくても良いということではなく、収蔵庫の定期的な拭き掃除など文化財害虫が発生しない対策が求められ、今まで以上に職員の仕事は増えることになる。燻蒸をしない時に行う作業について年間スケジュールを作成するなどして気を付けた方が良いとの意見が出された。

### ③平成 28 年度郷土文化館予算（要求状況）について

委員より、特別展などの色々な事業があり、大変な様子が見受けられるが、調査費のほとんどが資料調査費であり、学芸員の研究調査費がないように見える。本来の学芸員のやりたい研究が、3～5 年後の展覧会に活かされるよう学芸員の研究調査費を獲得できるようにしてけると良いとの意見が出された。

これについて、事務局より、来年度以降の展覧会のための資料調査費など、少しずつではあるが予算を取っている旨、回答した。

これに対し委員より、学芸員の研究を伸ばしてほしい。少しずつでも進め、いずれは展覧会や研究報告での発表などにつながっていくと良いとの意見が出された。

また、別の委員より、研究は博物館の大きな柱のひとつである。展覧会などの普及啓発は成果が見えやすいので、そちらに重点が置かれてしまうが、収集やその上での研究について、特に基礎研究的な部分はすぐには成果が見えない部分もあり、理解を得ていくことが難しい面もあるが、とても重要であるとの意見が出された。

### (3) その他

#### ①博物館構想策定事業進捗状況について

このことについて、事務局から、会議資料に従って博物館構想策定事業の平成 27 年度の進捗状況及び平成 28 年度以降の進捗予定について報告した。（質疑なし）

以上をもって、協議を終了し、散会した。